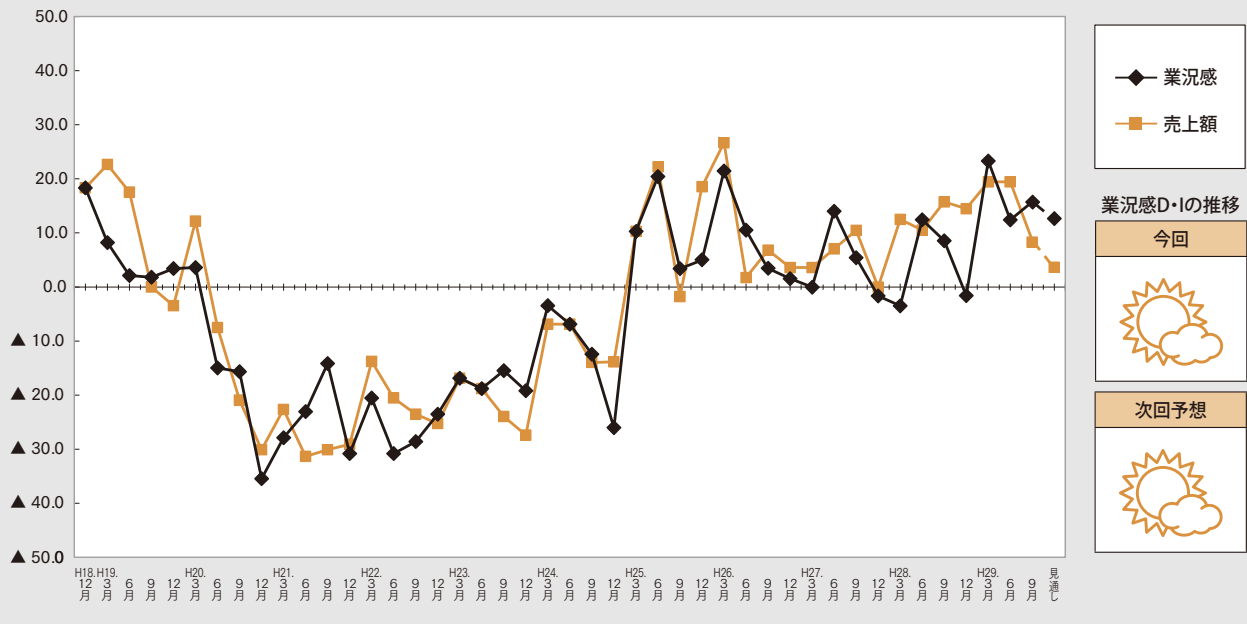


不動産業

Real estate industry

業況感好調を維持

D・I 推移グラフ (不動産業)



1 今期 (平成29年7 - 9月期)

不動産業の今期業況感は15.8 (前期12.3)となり、前期比3.5ポイント上昇。DI値は3期連続で二桁を維持している。

しかし、項目別に見ると、販売価格の低下、仕入価格の上昇もあり、売上額、収益ともに前期比マイナスとなっている。販売価格がやや下降も仕入価格がやや上昇となっている。資金繰りもマイナスとなっており、好調な業況感にややかげりが見え始めている。人手についても不足感が大きくなっている。

2 来期の予想 (平成29年10 - 12月期)

来期業況感はDI値で3.3ポイント低下の予想。売上が悪化し、販売価格やや下降、仕入価格やや上昇であるが、DI値プラスは維持できる見込みである。雇用に関しては、他業種同様、不足感が続く見込みである。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H28. 9月期	H28. 12月期	H29. 3月期	H29. 6月期	H29. 9月期	来期 見込み
業況感	8.9	▲ 1.8	23.2	12.3	15.8	12.5
売上額	15.8	14.3	19.3	19.3	8.8	3.5
収益	14.0	16.1	22.8	26.3	8.8	8.8
販売価格	▲ 1.8	5.4	▲ 3.5	0.0	▲ 3.5	▲ 5.3
仕入価格	▲ 3.5	0.0	▲ 3.5	▲ 7.0	3.6	5.4
在庫	▲ 5.3	▲ 10.7	3.5	0.0	▲ 3.6	▲ 1.8
資金繰り	12.3	▲ 1.8	7.0	3.5	▲ 5.3	▲ 3.5
人手	5.3	1.8	7.0	8.9	14.3	12.7
設備状況	-	-	-	-	-	-

業況調査メモ

鹿兒島中央駅前の一番街商店街入り口に当たる中央町19・20番街区は、マンション等に先駆けて2020年6月の商業・業務施設の先行オープンに向け、11月にも既存建物の解体工事に着手する。病院やホテル、マンション、商業施設などの複合施設が出来る市交通局跡地は、11月ごろに周辺住民への説明会を開き、来年5月着工、20年6月ごろの完成を目指す。商業・業務施設、ホテルなどが入る天文館の千日町1・4番街区の再開発ビルは、当初計画の地上24階から15階建てに変更し、18年度着工、20年完成を予定している。これらに伴い、それぞれ周辺の不動産の動きが活発化している。